

第43回新日美展 ワークショップ



切り絵の魅力

講師 工芸委員 湯澤 朱美

ワークショップにて、皆様との楽しい時間を有り難うございました。皆様最初は「切れるかしらー」「ワクワクするー」等と言いながら、カッターやハサミを手にしていました。切り終えてみるとドキドキの気持ちから一変して「うわー素敵」「自分で切った物には見えない」等の、自信に満ち溢れる声に変わりました。自分で絵を作り上げる達成感や満足感を得て、笑顔で「ありがとう」と言って頂ける切り絵、なんと素晴らしい事でしょう。



剪画体験

講師 絵画委員 飯村 君江

和紙による色遊び。ハガキサイズの台紙に好きな色の和紙を三枚重ねて貼り、カッターナイフで自由な線を入れ、そこに出来た面を抜きとっていくと思いがけない抽象造形が出来上がってきます。参加された方は最初は大いに戸惑っておられました。熱心な制作されるうちにだんだん楽しくなられ、最後に額に入れるとさらに作品がよく見え、記念写真を撮ったり、お互いに見せ合ったりと楽しくひと時をすごして頂きました。



デッサンの実演とその意味

講師 絵画委員 張京浩

デッサンの実演にお越し頂いた皆様方にお礼申し上げます。当日はご説明が至らなかつた点もあつたかと存じますが、ご容赦頂けますと幸いです。私にとつてデッサンとは、線で面と奥行きを探る行為であり、線で美を表現する意味であります。私が目指すデッサンとは基本練習だけではなく、心に感じたことや思ったことを美しく表現する事でありです。おかげ様で多くの方々にご来場いただき、無事に終了することができました。

編集後記



今号は新年の挨拶、第43回新日美展の講評、受賞の喜び等を掲載致しました。今年も、皆様の投稿をお待ちしています。

担当 石原 修

京都支部だより 京都支部小品展を終えて 四方 公子

好天氣が続く十一月八日(十三日まで)恒例の新日美京都支部小品展を西宮のギャラリーで開催しました。今回も搬入から搬出まで皆の協力で賑やかに出来ました。段々高齢化を感じながらも、慣れた雛での展示はバツチリ！皆で展示後のミニパーティーも盛り上がりました。今後の課題として、京都支部は会員の地域が広範囲で来て頂くにもやはり遠方になり、高齢と言う条件に多くの来場者は望めない事を痛感しました。以前は通りかかった人が何気なく気楽に入つて来られた好条件も有りましたが、今回はそれも少なく、今後の大きな問題と感じています。